

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

ティカカズラ (*Trachelospermum asiaticum* (Siebold et Zucc.) Nakai)
ケティカカズラ (*T. jasminoides* (Lindl.) Lem. var. *pubescens* Makino)

上町あづさ（武庫川女子大学建築学部景観建築学科）

uemachi@mukogawa-u.ac.jp



キヨウチクトウ科ティカカズラ属のティカカズラは本州、四国、九州の山野の林に分布する常緑のつる植物である²⁾（写真-1）。葉は橢円形～長橢円形で対生し全縁であるが、葉の大きさや形には変異が多い。開花期は5～6月で、頂生または腋生の集散花序に径2～3cmの花が着く。花冠は白色～淡黄色で、花筒は黄色または橙色を呈する⁵⁾。花には芳香があり、花筒の長さは約9mmで細長く、スズメガが花粉を媒介する¹⁾。果実の長さは15～25cmで2個の袋果が対となり（写真-2），晚秋から冬にかけて成熟するが、花の数の割に着果数は少ない。種子は長さ12～14mmで先に白い長毛があり、風で散布される（写真-3）。5月初旬に播種すると比較的容易に発芽する。後に述べる近縁種ケティカカズラとともに、グラウンドカバーや立面緑化材料として多様な緑化現場で利用されており、長尺つる植物としての生産、利用もみられる。

ケティカカズラは近畿地方以西に自生し²⁾、その名のとおり、若枝、葉裏面、花序などに毛が多い。ティカカズラは花筒の狭い部分が広い部分より長いのに対し、ケティカカズラでは花筒の狭い部分が広い部分と同程度の長さかまたは短いことで区別できる（写真-4）。また、花冠や花筒はティカカズラのような黄色みを帯びない。幼木の間は花が咲かないばかりか、葉裏面の毛が少ないため、ティカカズラとの識別が困難であり、しばしば誤認されている³⁾。

さらにティカカズラ類の識別を困難にする要因として、雑種の存在が挙げられる。ティカカズラおよびケティカカズラの自生域が重なる近畿以西では両者の中間的な形態を示す個体が見られる⁵⁾（写真-5）。また、リボソームDNAのITS領域における解析結果もこれらの自然交雑を示唆している^{4,5)}。



写真-1 スギに登攀するティカカズラ（滋賀県近江八幡市）

ケティカカズラの幼形葉に毛が少ないと先に述べたが、他にもティカカズラ類の幼木と成木とでは大きな違いがある。幼木は地表に匍匐茎を延ばし広がり、樹木の幹に出会うと気根を出し付着登攀を開始するが、幼若相のつるは巻き付かない。ある程度の高さまで登攀し成熟相になると巻き付き茎を出したり、花を付けたりするようになる。一般的につる植物の茎が登攀する場合、気根による付着または巻き付きのいずれかの方法をとるが、ティカカズラ類の成木の茎（成形枝）は気根による付着と巻き付きの両方で登攀できる（写真-6）。

以上のようにティカカズラ類は生育相により特性が大きく異なるが、幼木も成木も同様にティカカズラ苗として流通しているため、利用に際して注意が必要である。幼木は匍匐させるか、壁面を付着登攀させるに向く。一方、成木は支持物に巻き付かせることが可能であるとともに、擁壁などを下垂させた場合に特に着花数が多くなり、開花期は見事である（写真-7）。また、ティカカズラ類には斑入りの園芸品種も多くあり、代表的な品種としてニシキティカやハツユキカズラ（写真-8）が挙げられる。これら斑入り品種は一般的に幼木が流通しているが、植栽後、年月が経つと成熟相に達し開花が見られる場合がある。

剛健な性質で夏の暑さにも強いティカカズラ類は今後、ますますの活用が望まれるが、生物多様性保全の観点からも、また緑化植物としての効果的な活用のためにも、ティカカズラ類の種および生育相を明らかにしたうえで流通、利用されること望ましいと考えられる。

引用文献

- 1) 井上民二・加藤 真 (1993) シリーズ地球共生系 4 花に引き寄せられる動物—花と送粉者の共進化, 平凡社, pp.114-125.
- 2) 大橋広好ほか編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科～キヨウチクトウ科, 平凡社, p.315.
- 3) 上町あづさ・下村 孝 (2008) 近畿中部自生株および流通株を用いたティカカズラ属の簡易同定法の検討, 日本緑化工学会誌, 34(1): 115-120.
- 4) Uemachi, A. & T. Shimomura. 2013. Molecular phylogeny of *Trachelospermum* (Apocynaceae) in

- Japan based on cpDNA and nrDNA nucleotide sequences. Acta Phytotax. Geobot. 64: 1-13.
- 5) Uemachi, A. & W. Fukui. 2016. Morphological and molecular studies for natural hybridization between

Trachelospermum asiaticum and *Trachelospermum jasminoides* (Apocynaceae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot. 67: 159-174.



写真-2 テイカカズラ類の結実



写真-3 テイカカズラ類の袋果と種子



写真-4 テイカカズラとケティカカズラの花筒部の違い



写真-5 テイカカズラ（上）, 中間型（中）
およびケティカカズラ（下）の花



写真-6 テイカカズラ類成形枝の付着登攀（左）と巻き付き登攀（右）



写真-7 擁壁を下垂するティカカズラ
(鴨川, 京都市)



写真-8 ニシキティカ（左）とハツユキカズラ（右）